平成30年度第1回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時　平成30年　6月28日（木）　9：30～11：00
○会場　宇都宮市冒険活動センター　会議室
○出席者氏名

・狐塚　章一委員　（市小学校長会）
・小堀　茂雄委員　（市中学校長会）＜副会長＞
・池田　　誠委員　（市ＰＴＡ連合会）
・五十嵐市郎委員　（市子ども会連合会）
・櫻井　政義委員　（市ﾎﾞｰｲｽｶｳﾄ･ｶﾞｰﾙｽｶｳﾄ連絡協議会）
・北條　成男委員　（市レクリエーション協会）
・月橋　春美委員　（県キャンプ協会）
・黒後　　洋委員　（宇都宮大学）＜会長＞
・平野　　勝委員　（篠井地区ゆたかなまちづくり協議会）
・伊澤　文彦委員　（県林業センター）
・坂内　剛至委員　（有限株式会社ネイチャープラネット）
・佐藤奈美子委員　（公募）
・宇賀神光夫委員　（公募）

（事務局）近藤 且之課長補佐，稲澤 正明所長，村山 弘樹副所長
須田 浩太郎指導主事，駒野 拓也指導主事

○公開　（傍聴者の数　0人）

１　開　　会
２　あいさつ
３　委員紹介　役員の選出
４　議　　題
（１）　報告事項
平成 29年度事業報告について
ア学校受入事業

事務局　：　（資料にそって説明）
会　長　：　ご意見，ご質問はあるか。
小堀委員：　学校受入のアクティビティに関して，中学生の登山は大変意義があると思う。昨年の実施校が22校となっているが，実施していない3校は，天候のためにできなかったのか最初から計画されていなかったのか教えていただきたい。
事務局　：　昨年度はすべての学校が登山を選択した。3校については，雨のため実施ができなかった。
宇賀神委員：　課題と成果とあるが，学校受入が難しくなっているということは課題というよりむしろ問題ではないか。計画の見直しも検討が必要ではないか。
事務局　：　例年，学校利用調整委員会を開催し，利用日を決定している。4月中旬から3月初旬の学校長期休業期間を除いて，学校を割り振っているが，文化祭や部活動の大会などがあり設定した枠に割り振れない場合がある。現在，冒険活動センターの開館日だけでの受入が困難になってきており，今年度からは日曜日を含めた受入を実施している。今後，枠が不足した場合には，夏休みの最初と最後の日程も検討していく。
会　長　：　日曜日の受入を行う上での一番の問題はなにか。
事務局　：　センター職員の勤務体制の問題もあるが，土日の受入をしてしまうと一般利用への影響がある。
平野委員：　冒険活動アクティビティ研修会の参加者が少ないことについて，ＰＲだけでは効果が薄いであろう。学校に文書で依頼するなどの方法を検討してはどうか。
会　長　：　学校ではどう考えているか。
狐塚委員：　いろいろな出張が夏休みにある中で参加したいが参加できない現状もある。
会　長　：　日程は日帰りか。参加すればいろいろ効果があると思うが，日程調整は難しいか。
ＰＲといっても難しい。地道に参加を呼び掛けるしかないであろう。
小堀委員：　今新規採用の教員が増えてきている状況である。いずれ冒険活動教室を計画していかなければならないので，研修会に参加することでよりよい活動が計画できると考えている。参加者については，今後増えていくことを期待しているというのが現場の考えである。
会　長　：　冒険活動センターとしてのＰＲも必要だし，校長先生が働きかけることも必要であろう。
池田委員：　全校が実施するということは，先生も全員が参加するということ。研修を業務の一つとして検討してほしい。

事務局　：　先ほど小堀委員からご質問いただいた中学校の登山の実施について，今後解題になるであろうことについてご説明させていただく。
（所長）
ここは，小学５年生と中学１年生が宿泊で利用しているが，同じ場所を利用するということから，活動に系統性をもたせることでそれぞれ発達年齢に応じた宿泊学習をするという考えで実施をしている。小学５年生は初めての宿泊学習，初めての来所ということから，園内を中心に自然の中を歩く気持ちを味わうことができる活動を体験してもらう。
気持ちも体力も充実した中学１年生では，もう少し冒険的な色合いをだし，登山を必修としてプログラムに取り入れている。同じ場所での宿泊学習になるが，活動に系統性をもたせることでそれぞれの発達年齢に応じた教育的な効果を図っている。学校職員の高齢化や経験のない若い職員の増加が見込まれる中，若い先生方にこちらでたくさん研修をしていだたき，子どもたちと一緒に山を登る良さを経験してほしい。そういったことを周知していくこともセンターにとって必要だと考えている。主観だが，縦走登山はつらい，きついといったマイナスのイメージから出発することが多い。しかし，登り終えた後は達成感を得た良い表情で帰ってくる。長丁場になればなるほど，多いと思う。そんなことから，登山の効果について先生方に引き続き周知を図っていこうと思う。

イ主催事業

事務局　：　（資料にそって説明）
会　長　：　ご質問はあるか。
宇賀神委員：　地域連携について，生涯学習センターを活用してほしい。
平野委員：　農産加工所は地域の方を指導員として登録して実施している。
坂内委員：　主催事業の応募は多いと思うが，抽選にもれた人はどれくらいいたのか。また，抽選にもれた人が次回応募をした場合には優先するなどの措置をとっているのか教えていただきたい。
事務局　：　「ちびっこキャンプ」「もりであそぼう」は応募が非常に多いので，前年度抽選にもれた人を優先して選考するようにしている。ただし，必ずしも当選するとは限らない。なるべく初めて参加する人を優先に選考をしている。
会　長　：　往復はがきでの応募が最適と考えているのか。メールでの申し込みは難しいか。往復はがきは応募者も面倒なのではないだろうか。

ウ一般受け入れ事業

事務局　：　（資料にそって説明）
会　長　：　アンケート数が 50 しか集まらないのはなんとかしたい。1 万人利用 1%で 100 になる。それくらいは集めたい。アンケートに回答すればなにか特典をつけるなどはできないか。ミヤリーちゃんなど市でもらえるものは難しいか。
事務局　：　シールや缶バッジであれば用意がある。それで回答いただけるのであれば検討していきたい。
会　長　：　大学でもオープンキャンパスの際にはボールペンを配るなど工夫している。付加的な価値をつけるなどあらゆる工夫をする必要がある。一般の方の意見はなるべく多くききたい。回収数３ケタを目標にがんばってほしい。
宇賀神委員：　国有林伐採についてお聞きしたい。園内周辺入山禁止とはどのあたりのことか。
事務局　：　昨年度伐採予定であったが，計画がずれ込んでおり，今年度夏から伐採を開始するとのことである。伐採エリアはセンター北側から東側にかけての山林，榛名山から男山にかけてのエリアの伐採を行う予定である。榛名山のセンター側斜面も随時伐採予定であり，伐採後はほとんと木がなくなると聞いている。
池田委員：　イニシアティブゲームの具体的な内容を教えていただきたい。
事務局　：　グループで相談し，協力しながら課題を解決していく活動である。冒険広場を中心に 3m の壁や切り株などのエレメントを設置している。ウォールでは 3m の壁をグループ全員が乗り越えるという課題が出される。このように各エレメントで与えられた課題をグループで協力して解決していくというもの。協力性や社会性などを育むのに有用で，小学校が多く選択するアクティビティである。
池田委員：　そういう活動ができると，一般利用者も楽しめる。一般利用者が増えているのは，そういう活動ができることも理由の一つか。
事務局　：　その通りである。
会　長　：　ぜひ一度体験してもらうといい。
櫻井委員：　資料３ページのパネル展参加者数とはどういう方を対象としているのか。

事務局　：　南図書館のイベントスペースを利用してパネル展と併せてネイチャークラフトのワークショップを実施している。そのワークショップに参加した人数である。
櫻井委員：　体験した人数ということか。
事務局　：　その通りである。家族連れが多かった。

（２）協議事項

①　平成 30 年度事業計画について（ア　学校受入事業，イ　主催事業，ウ一般受入事業）

事務局　：　（資料にそって説明）
会　長　：　平成 30 年度の事業計画についてご意見，ご質問等はないか。
宇賀神委員：　参考資料別紙 6 について，6 月は食中毒など心配される時期である。その対応についてお願いしたい。たとえば保冷庫を設置するなど。施設面の整備が難しい場合は，つくったものをできるたけ早く食べられるような活動方法等マニュアルを作成してはどうか。
会　長　：　去年の対応はどうであったか。
事務局　：　昨年度 5 月に発生した食中毒事故は，レストラン起因の事故であった。原因菌は，エシュリキア・アルベルティ。発症したのは国本中生徒 29 名，緑が丘小 2 名，陽光小 6 名であった。それ以外にも体調不良を訴える児童生徒がいた。事故発生後，保健所の指導により衛生管理の対策を講じ，安全な食事の提供を行っている。
会　長　：　レストランの運営に対して，どこまでセンターが関わることができるのか。昨年度の事故は食材や食材の保管方法など環境要因が大きいのか。
事務局　：　保管の状況が良くなかった。原因食材の特定には至らなかったが，保健所の指導により食材の消毒など徹底している。
会　長　：　事故を起こすなということではなく，どのような対応をしているかが重要である。
昨年は 12 月の一般利用者数が多いが，一般利用の月ごとの増減について説明してほしい。
事務局　：　一般企業の研修等で利用者数が増えた。通常は閑散期である。

②　「安全」についての協議・意見交換

事務局　：　（資料にそって説明）
会　長　：　漠然としたテーマだが，それぞれの立場でご意見をいただきたい。
宇賀神委員：　事業を実施する前に事前学習を行っている。それ以外にも研修を受けたボランティア，指導員を事業に同行させている。
五十嵐委員：　市子連の立場からお話する。県子連，全子連では「子ども会 KYT」という資格を取得して事業を行っている。危険予知トレーニングを行っている。子どもたちがその活動に対して，どんな危険があり，自分たちでどうしたらいいのか考えながら行動していけるようにというねらいで行っている。本来，KYT をやろうとすると時間が必要だが，5 分間 KYT ということで，今回の活動に対してどんな危険があり，自分たちはどこを，どうやってその危険を避けていくのか，自分たちで考えて行動していけるようにしている。冒険活動であれば，野外炊飯場ではどんな危険があるか，どうやって危険を避けるのかということを考えさせる。これには指導者側が危険を予知しているということが前提であり，市子連では，資格を取得させて事業を行っている。
宇賀神委員：　マニュアルと人材，指導者の育成が大切であろう。
月橋委員：　いろいろな目的をもってプログラムを実施するが，安全面からまず人数的な確保ができているかが大事なことだと思う。この人数でこの活動が安全に実施できるかと考え，無理だと思う場合にはプログラムを変更する，内容を見直すということが安全に活動するためには大事なことである。育成をすることは必要なことだが，まずは安全を確保した環境が大切である。
会　長　：　プログラムの点検，人材の確保などご意見いただいたがその他どうか。
事務局　：（所長）　昨年度那須で大変不幸な事故が起きた。わたしたちも対岸の火事にはできないと考えている。冒険とは，「子どもたちにとって初めての体験ではあるが，ちょっと頑張ればできる事への挑戦」と捉えている。子どもたちにとって転ばぬ先の杖が多すぎてもよくない。杖の数が問題である。子どもたちには 3 日間でたくましさも学んでほしい。引率の先生がたには安全・安心を担保できる施設でありたいという思いもあり，ジレンマを抱えている。
冒険活動センターにはイニシアティブゲームやアドベンチャーゲーム等 40 本近い活動がある。アドベンチャーゲームは非常に冒険色が豊かな活動である。登山も含めて，特別な支援が必要な活動がある。命に関わる部分については，絶対に守らなければならない部分であり，職員研修で徹底させている。学校側にお聞きしたいのは，子どもたちの安全についてどの程度までなら許容できるのか。また，各団体で事業実施にあたり，ここだけは守っている安全についてお伺いしたい。
会　長　：　安全をすべて担保してしまうと冒険ではないという意見もある。一般利用のかたの意見と

して夜が暗いことが困るという意見もある。しかし，夜が暗いことも子どもたちにとって冒険の一部と考えれば，簡単にすべて明るくすることは冒険活動センターの理念にはそぐわない。本質的な議論になってしまうが，ご意見いかがか。

狐塚委員：　場所の安全，道具の点検については100%やらなければいけないことである。実際に活動するなかでの安全確保については，絶対にやってはいけないことを事前に注意喚起したうえで，子どもたちに考えさせることも必要であろう。すべてレールに乗せて活動するのではなく，悩ませたり，迷わせたりというのが良いのではないかと思う。個人的には擦り傷程度はしかたないと思う。しっかり安全を確保する部分と子どもたちに主体的に活動させる部分とが必要だろう。

会　長　：　スタッフの確保が難しいのではないか。大学としても参加させたいが，平日は場所が場所だけに難しい。スタッフとしてサポートできる方がいれば，ぜひ情報提供をお願いする。

櫻井委員：　子どもたちはとにかく危ないことが大好きである。炊事で火をおこせば，火の番をしたがる。これは火わすらがしたいから。刃物をもたせれば，周りが気になる。なにかあれば私が責任をとるのだという覚悟をもって活動している。事前に下見，準備をすることは当たり前にやらなければならないことである。それ以外に私にできることは，子どもたちから目を離さないことである。口は出さない，手は出さないが，決して目だけは離さない。これをしないと，仮に事故が起きたときになぜそうなったのかがわからず，次に生かすことができない，次につながらないと思う。擦り傷もだめとなると子どもたちにとっても面白くない体験になってしまうと思う。そういったジレンマは常に抱えている。大人には予測がつかないことがたくさんある。常に悩んでいる。

会　長　：　その他よろしいか。では，これで閉会とする。

5　閉　　会